

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、教育施策の成果と課題を検証し改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や改善に役立てることを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、平成19年度から実施されています。今年度は8回目の悉皆調査となり、本市では、小学生697名、中学生620名が参加して、平成29年4月18日に調査が行われました。内容としては、国語と算数・数学の教科に関する調査と、学習習慣や生活状況等について尋ねる児童・生徒質問紙調査となっています。

2 学力調査の概要

【全般的な概要】

- 小学校については、国語・算数ともに、A問題（主として「知識」に関する問題）・B問題（主として「活用」に関する問題）で、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。調査開始以来、高い学力状況にあります。
- 中学校での国語については、A問題・B問題ともに、平均正答率が全国平均・府平均を上回っています。数学についても、A問題・B問題ともに、平均正答率が全国平均・府平均を上回っており、高い学力状況にあります。
- 小中学校とも、全国的な傾向と同様、A問題に比べB問題の正答率が低い状況にありますので、「活用」する力の育成に向けて、今後とも授業改善等に取り組んでいくことが必要であると考えています。

【国語の概要】

- 小・中学校ともA問題では、基本的な読み書き、文章を読むことに関してはよくできています。
- 小学校のB問題では、自らの考えをまとめて書いたり、考えの根拠となる部分を本文や資料などから、読み取ったり引用したりすることに課題が見られました。
- 中学校のB問題では、根拠を明確にして書いたり、目的に応じて文章や資料から、必要な情報を取り出して、自分の考えをまとめる点に課題が見られました。

【算数・数学の概要】

- 小学校では、計算や測定処理など基本的な知識・技能についてはよくできていますが、（ ）を含む四則計算の順序や百分率などの意味理解に課題が見られました。B問題では、図形の性質を活用して考える問題、割合・百分率などの問題、ことばや数を用いて理由を記述したり、説明したりすることに課題が見られました。
- 中学校では、基本的な計算問題はよくできていますが、B問題では、グラフや表に関わる問題や情報を論理的に処理する力や数学的な表現を用いた理由の説明、図形の性質を用いた方法の説明に課題が見られました。

3 質問紙調査の概要

【生活習慣について】

小・中学校共に、「毎日、朝食を食べる」、「起床・就寝時刻が決まっている」など、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒の割合が高くなっていますが、就寝時刻は遅くなっています。規則正しい生活習慣の確立に向け、今後も家庭での習慣づけをお願いいたします。

携帯電話やスマートフォンの所有率は学年が進むにつれ高くなりますが、ゲームも含めて利用する時間は中学校では長く、家庭学習の学習時間にも影響を及ぼします。また、犯罪の未然防止などからも、家

庭でのルールづくりは大切と思われます。

【学習習慣について】

小・中学校ともに、家庭学習(宿題を含む)によく取り組んでいます。家庭学習は学力と相関関係が高いと言われており、自分で計画を立て予習や復習をすることが大切です。

「読書は好きですか」の質問については、小・中学校ともに全国と比べ低い結果となっていますが、「読書が好き」と答える児童生徒は、少しずつ増えてきています。読書は学力の基盤となる読解力の育成とも深い関係があります。

【自分自身に関することについて】

「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高く、前向きな意識を持って生活していることがうかがえます。しかし、「自分には良いところがある」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合は、全国と比べ小・中学校ともに低くなっています。子どもたちの自尊感情の向上を支援していくことが重要と考えます。

【地域・社会との関わりについて】

「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」などの地域社会に関する質問は、小・中学校とも全国に比べて低くなっています。

「新聞を読んでいますか」の質問については、全国の傾向と同じく低い傾向にあります。地域や社会で何が起きているかの情報に関しては、新聞よりスマートフォンやテレビニュースで得ることが多い傾向にあります。

【その他】

授業で自分の考えを発表することや、児童生徒での話し合う活動が多く取り入れられており、国語、算数・数学などで授業の内容がよく分かると答えている児童生徒が増えています。授業において、確かな学力の育成に向けた指導方法の工夫・改善が進んでいます。

4 調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策

- 新学習指導要領を見据えた教育課程の編成や分かりやすく楽しい授業、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を一層進めていきます。
- 基礎学力の定着を図るとともに、「活用する力」の育成に向け、子どもたちの主体性や学習意欲を引き出す「学び合い」のある学習活動を効果的に取り入れ、様々な意見をしっかり聞き、自分の考えを深めながらまとめて書く力や、根拠を持って分かりやすく説明する力を伸ばす言語活動の充実を進めていきます。
- 図書を活用した授業を工夫し、本やインターネットを使った調べ学習や、探究的な学習の工夫に引き続き力を入れていきます。また、ICT活用による教育の質の維持向上を図るとともに、更に教育機器などのICT環境を整備していきます。
- 家庭学習と学力には、強い相関が見られます。予習や復習など自ら計画を立てて学習する、より質の高い家庭学習や自学自習の習慣化の確立に向けて取組を進めていきます。家庭におかれましても、家庭学習の習慣化に向けてご協力をお願いします。

教育委員会では、子どもたちに、学校や家庭・地域の中で、多様な力を身につけ大きく成長してほしいと考えています。本調査の結果だけで学力の全てを表すことはできませんが、これを一つの指標として、児童生徒一人一人の学びや生活を充実させ、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育むために、子どもたちの状況に応じて、各学校で有効に活用し、学力充実に向け一層努力していきます。保護者をはじめ、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。